

令和5年度 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会 (第1回) 会議要旨

- 1 開会
- 2 辻村副市長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 委員長選任・委員長挨拶
- 5 委員会の会議の公開について（傍聴者なし）
- 6 審議事項

(1) 令和4年度アクションプラン（後期）評価結果の報告について
【事務局】（令和4年度アクションプラン（後期）評価結果報告）

農業分野

【委員】農業分野はC評価が2件あったが、その事業についてはどのように取組をしていくのか。

【農政課長】①生活研究グループの料理教室は、今後の状況を見て、開催を検討していく。②持続性の高い農業生産方式の導入の推進は、有機農業の栽培方式に取りくむための研修を農業団体に行っていく。今後、普及活動に努めていく。

【委員】持続性の高い農業生産方式の導入の推進事業の関係機関は存在するのか。

【農政課長】JAや京都府が該当すると考えている。関連した組織で、事業をされる場合は市としても広報を行っていきたい。

【委員】この事業は、国の補助金はあるのか。

【農政課長】国も有機農業を進めるために、技術革新の必要がある。新たな技術や肥料が社会普及された上で、有機農業の面積を増やしていく段階的な計画であるため、補助金等は現状、存在しない。

【委員長】本市産業振興ビジョン評価検討チーム会議において、生活研究グループの料理教室では、米粉を使用した研究会を行うと聞いた。持続性の高い農業生産方式の導入の推進事業について、環境の問題からコンポストで生ゴミの処理を行い、活用していくことの話があるが、具体的な形にはなっていない。また、地元でクラフトビールができはじめ、原材料の大麦を作るという地元農業の新しい在り方も出てくると考えている。

商 業 分 野

【委員長】商業については、近鉄の東側の商店街が大きな問題になっており、イベントが商業振興に繋がらない問題を抱えている。

【委員】まちゼミやワンコインバルの参加事業者の毎年の増減状況について問う。

【産業振興課長】ワンコインバルは、11月3日（金）から今年も開催されている。本来、バルは飲食店向けのイベントであり、店舗がPRしたい品にお酒を付け、通常の価格よりも安価で提供し、アピールするのが趣旨である。しかし、商業者に十分に周知できていない可能性がある。事業は商工会主体だが、市もしっかり参画して意見を伝えていきたい。

【委員】市民も楽しみにしている。発展を期待している。

【委員長】巡回地域との連携で、販売所を巡回してしまうことはあるが、とある小売店が利用者を対象に、商品の配達が行われないエリアで、お年寄りや車を持たない方に対して、店舗まで送迎を行うサービスがある。

工 業 分 野

【委員長】大学との連携と活用をどうしていくかが京田辺市のみならず、京都府としての大きな課題である。課題の例として、京都の伝統産業に係る専門学校を卒業しても、京都に残るのではなく、他地域に移住して、そちらの伝統産業になってしまう。硝子職人なら別地域の産業設備が充実しているため、魅力を感じてそちらに流れてしまったケースがある。このことから、京田辺市で育った学生が、市内に残ってもらうための工夫が必要だ。

【委員】以前、市内企業がテレビ局に紹介されて、PRになっていた。市内企業に取材がある連絡は、市役所にはあるのか。

【経済環境部副部長】以前、その企業に訪問したときに、取材があったことを知った。

【委員】市内には魅力的な企業がたくさんある。

【経済環境部副部長】京都府がフードテックで食品関係の開発をしていく計画をしており、そこに市内企業を展開する等、色々な連携をしながら進めていくことを考えている。

観光分野

【委員】大河ドラマ「どうする家康」のイベントが同志社女子大学で、先日行われていた。来場客が多く、遠方の他府県から来られた方も多く見られた。純粋に歴史が好きな方も多く、伊賀越えとして家康が通ったまちとして広く全国に知らしめていくといいと考える。

特に本市は、歴史に詳しい人材が多いため、一層力を入れてPRしてほしい。

【委員長】京田辺市の文化はお茶の文化から知恵の文化、さらに能の文化もある。歴史や文化の発祥の地といえるポテンシャルを持っていることを活用して、観光を広めて集客を増やすことに繋げて行くことが大切である。

【産業振興課長】歴史や文化をPRしきれていないところがある。家康が周辺を逃げていったという史実はあるが、十分なPRがしきれていなかったのも、この大河ドラマを契機にPRすることを昨年度から始めている。大河ドラマシーズン以外に今後も、観光マップに掲載したりする取組を考えている。

【委員長】家康が京田辺市を通ったかどうかは諸説ある。PRをして、文化を守っていくことが大切だ。歴史で諸説があるときは、本家本元は本市であるとPRしておかないと、文化価値が薄れてしまうため、宣伝が必要だと考える。

【委員】家康が奈良を通ったという説もあるが、山城大橋を通ったという節が最有力だが、ほとんどの人がそのことを知らない。地元の京田辺市民にさえ、知られていないことが残念である。

(2) 市内事業者アンケートの説明について

【事務局】令和4年度から京田辺市産業振興ビジョンのアクションプラン(後期)期間が開始され、専門家、外部有識者の意見に加え、新たに事業者ヒアリング(アンケート)を分野別に事業者を抽出した上で行い、意見及び要望を評価の参考とする新たな評価方法を採用した。このことから、ヒアリング結果を参考・活用し、さらなる市産業の発展や課題の解決へと繋げることを目的としている。

7 その他

8 経済環境部副部長あいさつ

9 閉会